

タウンミーティング記録

記録：秘書広報課

日時	令和2年10月28日（水）19時00分～20時10分		
場所	波賀B&G海洋センター体育館	参加者数	計 48人
出席者	福元市長、佐竹院長、中村副市長、隅岡参事、前田部長、世良部長、坂口局長、坂根参事、三木次長 司会：水口次長 プレゼン：船曳次長 事務局：岩路、小椋、植田、斉藤、山根		
参加者	新病院の敷地面積は約38,000平方メートルとのことだが、現在の病院はどのくらいか。新病院と現在の病院を比べるとどの程度容量が大きくなるのか。 新病院は駐車場が広いだけか、それとも建物も大きくなるのか。 現在の病院と新病院の建設予定地である城下では、波賀から通院するには明らかに距離が遠くなる。波賀町民にはデメリットが大きくてメリットが小さいのではないか。どんなメリットがあるのか。		
船曳次長	現在の敷地面積は、病院の建物以外に医師宿舎や職員駐車場なども含め、16,113平方メートルほどになる。新病院の建物の大きさは、病床数がまだ決まっていないので、この後策定する基本計画の中で決めていくことになる。今はまだ説明できない。		
福元市長	先ほどの説明のとおり敷地面積は現在の2倍ちょっとになる。病院を立て替えて新たな場所を作るのは非常に大きなエネルギーがいる。今のところでの建て替えが困難な現状で、わが町にとって（医療の）拠点を作るには新たなところに作らなければならない。工場跡地が急遽建設予定地となったのは、その課題解決の一つである。なぜこんな広い土地がいるのかということ、病院は建設して30年、よくもって40年をサイクルに建て替えを考えなければ時代についていけない。その観点から、新病院ができて30年から40年後にはまた次に建設する土地をどこかに探さなければならなくなる。広い敷地があれば、そのなかに建設できるので次の土地を探さなくてよい。先を読んでできるだけ広大な土地が望ましいという話が有識者からあった。全部を病院の用地にするのではなく、駐車場や公共バスの方転場なども必要。そういう観点からもこの土地を選んだということの一つである。理解いただけるとありがたい。決してこれが答えになるとは思っていないが、そういうことも一つの要素である。 それから波賀から通院するには現在の病院よりも5分から10分遠くなるということについては、アクセスのよい道路整備や公共交通バスの乗り入れを今後検討するなかで、できるだけ利便性を高めていきたい。自家用車での通院も考え、道路行政と調整していきたい。少し遠くなるがアクセスのよい道路を整備していきたいと考えている。 市の最南端に建設するのは、姫路に新しくできる病院との連携で、総合病院も西播磨の中核病院として指定を受けたところであり、特に近隣の市町村の病院が厳し		

	<p>い状況のなかで、周産期、小児科が充実した中核病院の機能を担うには将来に向かって適地であると思っている。</p>
<p>参加者</p>	<p>新病院は揖保川のすぐそばだが、50年や100年に一回の水害なども考えているか。救急ヘリコプターの発着場はできるのか。</p>
<p>前田企画総務部長</p>	<p>ゲリラ豪雨の多い現在では洪水の可能性は否定できないが、宍粟市の地形はだいたいどこをとっても土砂災害などの危険性があると考えている。防災対策をとれば病院建設に有効な地域であると考えている。</p>
<p>隅岡参事</p>	<p>現在は中国道山崎インターのところにヘリコプターの発着場がある。新病院にそこから救急車で搬送した場合は4、5分で到着することと、新病院の敷地は広いがヘリの発着場として利用できるか航空法上の問題などをふまえ、検討していく。</p> <p>(意見交換 終わり)</p>

* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。